

# 地域振興県土警察常任委員会資料

(平成26年6月12日)

- 1 鳥取県への移住状況について（平成25年度末現在）  
【とっとり暮らし支援課】・・・1ページ
- 2 智頭急行株式会社定時株主総会の開催について  
【交通政策課】・・・3ページ
- 3 北海道、沖縄での航空便利用促進PRキャラバンの実施について  
【交通政策課】・・・4ページ

地 域 振 興 部

## 鳥取県への移住状況について（平成25年度末現在）

平成26年6月12日  
とっとり暮らし支援課

平成25年度の本県への移住者数がまとまり、年間962人となりました。この結果、平成23年度から平成25年度までの3年間の移住者数は2,172人となり、平成26年度までの目標2,000人（マニフェスト）を1年早く達成しました。

### 1 移住者数の調査結果

#### (1) 移住者数の推移

年度	移住者数	累計	目標
平成23年度	504人	504人	2,000人
平成24年度	706人	1,210人	
平成25年度	962人	2,172人	
平成26年度			

#### (2) 平成25年度移住状況（世帯主の状況）

<年代別>

- ・年代別にみると、20～30代が多い。

<理由別>

- ・理由別にみると、20～40代は、就職が中心。結婚・子育ても目立つ。  
50代以上は、退職等による帰郷、田舎暮らし志向が中心。

<UIターン別>

- ・UIターン別にみると、それぞれ伸びているが、Uターンの伸びが目立つ。

<地域別>

- ・移住元の地域別にみると、近畿地方（大阪府、兵庫県等）からの移住者数の伸びが目立つ。  
中国地方（岡山県等）、関東地方（東京都等）がこれに続く。
- ・移住先の地域別にみると、鳥取市、倉吉市への移住が目立つ。

#### (3) 移住者数が増加した理由

東日本大震災以降の安全志向や県内企業の求人増加に加え、県及び市町村による施策の充実による効果もみられるようになったと考えられる。

### 2 今後の取組

人口減少・高齢化が進む地域の状況や都市部の企業の採用増の動きを踏まえ、特に地域の将来の担い手となる若い世代をターゲットに、首都圏をはじめ全国に展開し、鳥取県への移住をより強く働きかける。

〔参考〕平成25年度移住状況

○移住者数・世帯数 962人・623世帯

○年代別 移住世帯数

・20～30代の移住者が多い。

20代以下：266世帯（42.7%） 50代：65世帯（10.4%）  
 30代：140世帯（22.5%） 60代以上：91世帯（14.6%）  
 40代：58世帯（9.3%） 計：620世帯 ※年代が不明な者（3世帯）を除く。

○年代別・理由別 移住世帯数

・20～40代は、就職が中心。結婚・子育ても目立つ。  
 ・50代以上は、退職等による帰郷、田舎暮らし志向が中心。

（単位：世帯）

	～20代		30代		40代		50代		60代～		合計	
	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比	世帯数 (世帯)	構成比
農林水産業	7	3.3%	10	9.3%	9	19.6%	4	7.7%	2	3.2%	32	6.7%
田舎暮らしを志向	11	5.2%	16	14.8%	9	19.6%	9	17.3%	24	38.7%	69	14.4%
企業等への就職	122	57.8%	39	36.1%	12	26.1%	14	26.9%	8	12.9%	195	40.7%
起業	3	1.4%	8	7.4%	0	0.0%	1	1.9%	1	1.6%	13	2.7%
結婚・子育て	34	16.1%	26	24.1%	7	15.2%	6	11.5%	6	9.7%	79	16.5%
介護	0	0.0%	1	0.9%	2	4.3%	3	5.8%	3	4.8%	9	1.9%
退職・卒業等による帰郷	33	15.6%	5	4.6%	5	10.9%	15	28.8%	17	27.4%	75	15.7%
その他	1	0.5%	3	2.8%	2	4.3%	0	0.0%	1	1.6%	7	1.5%
計	211	100.0%	108	100.0%	46	100.0%	52	100.0%	62	100.0%	479	100.0%

※年代又は理由が不明な者(144世帯)を除く。

○Uターン別 移住世帯数

・それぞれ伸びているが、Uターンの伸びが目立つ。

Uターン：354世帯（前年度：233世帯）  
 Iターン：266世帯（前年度：201世帯）  
 計：620世帯 ※区分不明な者（3世帯）を除く。

○前居住地別 移住世帯数

・近畿地方（大阪府、兵庫県等）からの移住者数の伸びが目立つ。中国地方（岡山県等）、関東地方（東京都等）がこれに続く。

（単位：世帯）

移住前	H25年度	H24年度	増減	前年比	主な都府県(H25年度)
北海道・東北	17	18	-1	94.4%	
関東	105	82	23	128.0%	東京 53、神奈川 28
中部	42	35	7	120.0%	
近畿	252	132	120	190.9%	大阪 123、兵庫 78、京都 35
中国	140	102	38	137.3%	岡山 57、広島 44、島根 29
四国	15	38	-23	39.5%	
九州・沖縄	30	11	19	272.7%	
国外	20	16	4	125.0%	
計	621	434	187	143.1%	

※前居住地が不明な者(2世帯)を除く。

○市町村別 移住者数

・鳥取市、倉吉市への移住が目立つ。

（単位：人）

市町村名	移住者数	市町村名	移住者数	市町村名	移住者数	市町村名	移住者数
鳥取市	337(775)	若桜町	17(27)	琴浦町	31(63)	伯耆町	66(179)
米子市	29(94)	智頭町	47(119)	北栄町	18(165)	日南町	33(102)
倉吉市	100(137)	八頭町	27(32)	日吉津村	1(6)	日野町	24(48)
境港市	21(67)	三朝町	58(69)	大山町	38(107)	江府町	5(33)
岩美町	70(78)	湯梨浜町	11(17)	南部町	29(54)	合計	962(2,172)

※( )内は平成23年度から3年間の累計

○行政支援の活用状況

・相談窓口の活用が目立ち、住宅支援制度、お試し住宅・体験ツアーがこれに続く。

回答のあったもの（127世帯）のうち主なものは次のとおり（複数回答あり）。

- ・相談窓口（109世帯）
- ・住宅支援制度（17世帯）
- ・お試し住宅・体験ツアー（10世帯）

## 智頭急行株式会社定時株主総会の開催について

平成26年6月12日  
交通政策課

智頭急行株式会社の第28回定時株主総会が去る5月27日に開催され、平成25年度事業報告等が次のとおり承認されました。

### 1 列車利用状況

特急の利用者数は、鳥取自動車道の全線開通による影響や昨年度実施された山陰デスティネーションキャンペーンの反動等により、「スーパーいなば」は前年度比101.0%となったものの、「スーパーはくと」が前年度比96.7%となり、特急列車全体では前年度比97.9%となった。また、普通列車については、通学客の増加により前年度比104.1%となった。

### 2 平成25年度の主な利用促進の取組

京阪神からの観光客誘致のほか、沿線自治体と連携した利用促進の取組を実施した。

- ・特急列車の利用促進に向けてカニなどの山陰の冬の魅力をPRするイベントを実施。
- ・恋山形駅をリニューアルしてブライダル列車やバレンタイン列車を運行。
- ・智頭急行スタンプラリーや智頭線沿線を歩くウォーキング大会を開催。 など

### 3 収支状況

収入については、車両使用料の増により前年度比101.6%となり、支出については軽油単価の上昇に伴う動力費が増加したものの、車両検査両数の減少に伴い修繕費が減り前年度比98.5%となった。この結果、当期損益は約206,372千円となり、前年度と比べて増収増益となった。

### 4 平成25年度の事業概況

#### (1) 列車利用状況

区分	H25年度 (人)	H24年度 (人)	差引増減 (人)	前年度比 (%)	主な要因
スーパーはくと	601,816	622,606	△20,790	96.7	鳥取自動車道の全線開通によるスーパーはくと利用者の減少及び通学客の増加による普通列車利用者の増加
スーパーいなば	241,417	238,991	2,426	101.0	
特急列車計	843,233	861,597	△18,364	97.9	
普通列車	211,739	203,324	8,415	104.1	
全乗車人員	1,054,972	1,064,921	△9,949	99.1	

#### (2) 収支状況

区分	H25年度 (千円)	H24年度 (千円)	差引増減 (千円)	前年度比 (%)	主な要因
営業収益①	2,799,775	2,755,461	44,314	101.6	車両使用料の増
営業費②	2,516,576	2,554,142	△37,566	98.5	修繕費の減
営業損益③ (①-②)	283,199	201,319	81,880	140.7	
営業外収益④	15,946	11,657	4,289	136.8	
営業外費用⑤	10,641	12,221	△1,580	87.1	
営業外損益⑥ (④-⑤)	5,305	△564	5,869	-	
経常損益⑦ (③+⑥)	288,504	200,755	87,749	143.7	
特別利益⑧	49,233	△16,412	65,645	-	
法人税⑨	131,365	69,724	61,641	188.4	
当期損益⑩ (⑦+⑧-⑨)	206,372	114,619	91,753	180.1	

## 北海道、沖縄での航空便利用促進PRキャラバンの実施について

平成26年6月12日  
観光戦略課・交通政策課

4月に新規就航したスカイマークの新千歳、那覇、羽田空港から米子鬼太郎空港への直行便やANAの増便に伴い、本県への誘客を図るため、次のとおり観光PRを実施しました。また、沖縄においても実施を予定しています。

### 1 北海道（新千歳）でのPRキャラバン

- (1) 期 日 平成26年6月6日（金）～7日（土）  
(2) 参 加 とっとり観光親善大使 稲井巴幸  
皆生つるや 女将 宇田川智恵（皆生温泉）  
三楽荘 若女将 御船静枝（三朝温泉）  
米子空港利用促進懇話会  
鳥取県観光連盟、県



#### (3) 概 要

○6月6日（金）：10：00～17：00

メディア及び旅行会社を訪問し、観光素材（砂の美術館、三朝温泉開湯850年事業、水木しげるロード等）をPRするとともに、県内旅行商品の造成を依頼。

※訪問先：北海道新聞、道新観光、JTB北海道、日本旅行北海道札幌支店、名鉄観光札幌支店、HIS札幌本店、北海道教育委員会、近畿日本ツーリスト札幌支店、阪急交通社札幌支店、読売旅行札幌営業所、トップツアー札幌支店、クラブツーリズム北海道旅行センター

○6月7日（土）：10：00～17：00

新千歳空港国内線旅客ターミナル2Fセンタープラザに観光PRブースを設置し、空港利用者へのパンフレット・チラシ（1,000セット）、ノベルティ配布、抽選会による「鳥取すいか」プレゼント、名探偵コナン・ゲゲゲの鬼太郎着ぐるみの撮影会等を実施。

### 2 沖縄（那覇）でのPRキャラバン（予定）

- (1) 期 日 平成26年6月20日（金）～22日（日）  
(2) 参 加 とっとり観光親善大使、皆生・三朝温泉旅館女将、米子空港利用促進懇話会、観光連盟、県

#### (3) 概 要

○6月20日（金）午後：新聞社・旅行会社キャラバン訪問

21日（土）終日：那覇空港内での観光PR

22日（日）終日：那覇空港内での観光PR